

# JAITI 6

Japanese Agricultural Inservice Training Institute

JAITIとは、「財団法人日本農業研修協力団」の英文、Japanese Agricultural Inservice Training Instituteの略称で「ジャイチ」と呼びます。1969年、農業を生活基盤とする、アジア・アフリカ諸国の農村地域社会の人々が、「生きる根幹」の食料を安定確保することで、生活の中に基礎的な教育と公衆衛生に目を向けるゆとりを持ち、健康で、自立心豊かな地球上の「友」になることを願って、活動が展開されています。

発行 (財)日本農業研修協力団  
住所 〒386-05 長野県小県郡武石村沖456  
TEL0268-85-3465 FAX0268-85-3583

## 日本のジャイチ

半年に一回の、御支援下さっている皆様への、ジャイチの活動報告です。この誌面を通して、当団をご理解くださると同時に、支援の輪を拡げて下さることを、お願い申し上げます。

昨年七月、ネパールの中南西部に、未曾有の大雨が降りました。首都カトマンズが、約一カ月、陸の孤島になった程の雨で、二、三百年生の樹木が流される、多量の雨が短期間に降りました。

幸にも、ジャイチの活動に、直接影響する決定的被害は免れました。只、シンパンジャンの農業実践学校の方では、長期的展望の中、多少、計画変更の部分が出ています。詳細は、次頁をご覧ください。

運営資金は、支援者皆様の「継続の維持」を大切に、お心持ちのお陰で、円滑な事業活動が出来ており、感謝をもって、御礼申し上げます。

今事業年度は、郵政省国際ボランティア貯金の寄附金、社団法人国際農林業協力協会(AICAD)の支

援金、環境事業団の地球環境基金助成金の配分も受け、それぞれ目的に添って、有効に使用しています。常々、NGOとして、有名にならずとも、一流の活動を展開したいと、申し出ておりますが、この基本方針が各界に理解され、七月、AICADの技術専門家二名が、調査研究に、十月、郵政省野金関係職員十六名が、視察研修に、カカニ実践研修農場を訪問下さり、地域住民の声をも含めて、現地の実態を見聞し、ジャイチのこの事業が、民衆と共に、十年先、二十年先を見据えた、意の長い、地に足を降ろした取組であることを、ご理解願います。

又、この一月には、環境事業団の専門家三名も、同様予定になっております。恒例になりました十一月の、ジャイチ、ネパール農場と学校、訪問の旅も、第四回目、十七名の参加により実施しました。その他、個々に事務局を通じて、現地を訪問下さった方々も沢山います。

自らの耳目と感性で、現場の状況を鑑みて下さった、多勢の方々よりの、角度を変えての助言は、今後の活動に対する参考に、理事・評議員各位にも伝えて、指針作りに生かす所存です。一方、NGO団体として、

在ネパール駐日本大使館及び、在日本駐ネパール大使館の双方から、管轄のけるる団体の、評価も受けるに至っていることを、支援者の皆様に報告致します。

この六カ月間に、支援者の方々により、色々な行動が実施されました。NGOとは、国際協力とは、そして、ジャイチ支援の輪を拡げようと、六月、京都市で、「もろこの会」、長野市で「三善信託銀行長野支店」、七月、長野県小諸郵便局、九月、愛知県小牧青年会議所、十月、神戸市で株式会社杜ハイターC会、長野

具上田市で「第一月曜会」、十一月、長野県善平で「小県福祉事務所研修会」と、支援者の方々の手により、開かれました。又、昨年に引き続き、十月に、埼玉県大井町の文京女子大学学園祭と、東京日比谷公園の「国際協力フェスティバル」では、ネパール品のバザーを開催して、活動資金の抽出をして下さいました。

直接事務所の方へは、コピーライターの打込作業、物品整理、書類作成、ワー

プロ打、日、英、ネパール語の翻訳、広報誌の編集、資料整理を、遠慮を問わずご協力下さり、皆様の汗の奉仕に厚く御礼申し上げます。

今年三月には、ここ武石村に、ネパールより、農業研修生も迎える予定です。一つ一つ小さな行動の積み重ねで、継続の維持と、奉仕精神があれば、誰でも参加出来る、ジャイチでありたいと願っています。

「世界AIDSデー」を機に、このヒマラヤ山地の王国も、国外から持ち込まれたエイズ(HIV陽性)という病気に対する、一年間に渡る闘争に立ち上がった。エイズは不純な性的接触や、輸血によって生じる。我が国でエイズが最初に出現したのは、一九八八年で、それ以降感染者数は、年を追って増大し、調査結果によれば、現在一八八人が感染している。この数字は、我が国において多くの人達がこの死病にとりつかれたことを意味し、今後に対する、重大な警告を発している。

この問題に対して、早急に適切な防止策を講じないと、我が国では今後数年の内に、エイズはガンに次ぐ、重大な病気になるだろう。それだけに、解決策が遅きに失しないよう、我が国が公衆衛生の状況を点検し、エイズ防止に乗り出したことは、時宜適切である。

エイズ感染の元因の一つで、解決に最も苦慮を予想されるのは、性的接触を求めて訪れる、外国人旅行者がある。親愛なる日本人がこの外国人に加わらないことを、願っています。

文責、ジャイチネパール ナワン・D・シエルバ

▲洪水で崩れてしまっただけで残った土地も石河原となった学校農場、左上は洪水前の農場



## ネパールからの最新情報

「世界AIDSデー」を機に、このヒマラヤ山地の王国も、国外から持ち込まれたエイズ(HIV陽性)という病気に対する、一年間に渡る闘争に立ち上がった。エイズは不純な性的接触や、輸血によって生じる。我が国でエイズが最初に出現したのは、一九八八年で、それ以降感染者数は、年を追って増大し、調査結果によれば、現在一八八人が感染している。この数字は、我が国において多くの人達がこの死病にとりつかれたことを意味し、今後に対する、重大な警告を発している。

この問題に対して、早急に適切な防止策を講じないと、我が国では今後数年の内に、エイズはガンに次ぐ、重大な病気になるだろう。それだけに、解決策が遅きに失しないよう、我が国が公衆衛生の状況を点検し、エイズ防止に乗り出したことは、時宜適切である。

エイズ感染の元因の一つで、解決に最も苦慮を予想されるのは、性的接触を求めて訪れる、外国人旅行者がある。親愛なる日本人がこの外国人に加わらないことを、願っています。

文責、ジャイチネパール ナワン・D・シエルバ

## 「登校拒否」

つて何？



社会の時間	朝の点検
時刻表	給食風景

シンパンジャンの生徒を見てみると、問題にこの疑問が湧きました。

二時間も歩いて通う子供もいるのに、始業一時間前には、もう学校に入り、授業が始まるのを、今か今かと待っています。

しかし、楽しんでばかりいて、安閑と過す訳にはいきません。何故？ 五、六才の一年生であっても、進級試験の結果が、学校で決めた水準に達しないと、留年になるからです。

先生の予想では「今年、六人は間違いなく留年になる」と、実な確信の答を、貰ってしまいました。

勿論、救済措置も設けてあり、水準を速かに上廻り、今後も学方向上の速度が、早いと認められると、こんどは飛び級で、いきなり、一年生から三年生に、進級することもあります。

但し、この学校で、今年すぐにこの制度に、適合する生徒はいません。何故なら、三年級はまだないからです。教室も、先生も受入態勢は整っていますから、状況に依っては、一学期終了後、三年級を開設するかもしれません。柔軟に対応する予定です。

写真を観て、生徒達の生々とした、学校生活振りをご想像下さい。

## 教室棟建設



新学期用に、教室二棟と、充分間に合います。この施設整備は、傾斜の強い学校敷地の条件、一度に多額の資金を使って、設備だけ作っても、利用が先になる無駄を省くため、毎年必要になる施設を作る方法を、今後

## 施設の整備

が、国策により、旧用に、優先的に建設資材が、国策により

り過ぎたため、資材が入らず、中断期間もありましたが、現在は工事も順調に進んでおり、新学期には、一棟の繰り返しです。

野から、農地を作り上げるべく、農地の授業が、洪水被害の影響を受けることなく、平常通り続けられたことは、申すまでもありません。

農業には「一農年一回転」の語があることを、この機に思い出して下さい。

この洪水時に、嬉しい行動がありました。

当然、学校に通う生徒連の家も、大、小の差はあっても、同様の雨被害を受けました。

しかし、父母はどうかでしょう。我家のことは投置いて、先ず学校を心配して、駆け付けてくれるではないですか。そして、授業に支障の無い状態にするための、校庭、道路、水道施設等の復旧作業に、

数人ずつの作業班を、自主的に編成して、交替で何日も、取組

前頁の写真の通り、四年生からの授業科目に、組入れ予定であった、農業実習用農地用地が、復旧不可能な被害に遭いました。

現在、代替農地用地を捜しており、見付かり次第、整備に取り掛かる予定にしています。

建築工事と違い、基礎整備と、土作りに、一年や二年では不十分ですが、開拓農業のことを考えれば、原



▲洪水で倒れた農場管理棟

洪水災害による  
計画変更

## 今、カカニ農場では

今年も前年にも書きましたが、昨年(例年のデータ)がありませんで、比較して、雨が早くから降り、降雪量も多く、地域によって、山間部の地滑りや土石流、平野部では洪水が発生し、一時はインドに通じている道路も不通となつてしまい、ガソリン、灯油等の石油類を始めとした、いろいろな物資が欠乏してしま



まい、値上がりと共に、日常生活にも支障が出ました。農場内に雨量計を設置して、一年間が経過しましたので、気温と併せて、その普及作物としてきつまいもの次を期待している。

結果を報告しますので、こちらの気象条件の把握と、旅行等で来られる場合の参考にしていただけだと思えます。

水稲の田植は、池の完成を待って、六月七日に行なわれました。その後若干の追肥と除草で、低温と日照不足のなかでも、良く育っていました。出穂も八月中旬一下旬と予定どおりでした。しかし、日本で冷夏に強いと云われている三品種は、いずれも出穂はこちらの品種より早かったのですが、実が熟りませんでした。この栽培は無理のようです。ネパールの高地用の品種は、作柄も昨年より良かったのですが、十月に入り、霜に荒されてしまい、全滅となつてしまいました。

種のみで、他の品種は被害を受けませんでした。ワラだけの収穫となつてしまいました。

今年の春、附近の農家に種を分けましたが、数人を除いては、やはり猪に荒されてしまったようで、今後どうするか大きな課題となつてしまいました。



▲気象記録に大役を果たす百葉箱と雨量計

嬉しい報せは、ジャイチを支援して下さる皆様とともに、喜びを分かち合いたいと思います。

当園の里親制度で、ネパールの子供、ペンバちゃん(6才の女子です)の里親を、お引受けください。

お母さんの名を汚すことのない行動をしよう」と、大張り切りです。

一つの出合いがきっかけで、里親子関係という種が播かれ、芽生え、子は親の温い気持ちに触れることで、自分の信ずる正しい道を、素直に歩き始めています。

ペンバちゃん、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

ペンバちゃん、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

一方、例年猪に食べられていたサツマイモは、五月下旬と六月下旬に、猪の進入しそうなない畑を整備して植えましたが、被害もな

あります。ここに通じているかと思えます。米年は品種比較試験も兼ねて、三月から六月までそれぞれ上旬に播種する計画があります。

大根は、品種比較の結果、現在の土壌条件では、美濃早生系と高麗系が、好成績でした。採種用には、美濃早生を準備しています。

母は、昨年育苗に使用したポットを、キャベツで使ってしまったため、露地植で育苗しましたので、除草時の幼苗の引き抜き、降雨による灌水などで生育が悪く、また、チツ成分も切ることができず、花芽分化がうまく進まず、花も昨年より半月遅れて、十月中旬より咲き始めています。

母は、昨年八月から、カカニ実験研修農場に、ほぼ常駐の松浦さん。現在は、社団法人国際農林業協力協会の、派遣専門技術家として滞在し、指導力と技術力に、地元農民の厚い信頼を受けている。カカニには、農業に全く縁の無かった、大阪の和田恒夫さんも、参加中。

## 母は日本の文部大臣です

お母様似の、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

ペンバちゃん、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

ペンバちゃん、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

ペンバちゃん、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

ペンバちゃん、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

ペンバちゃん、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

ペンバちゃん、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

ペンバちゃん、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

ペンバちゃん、今年も草丈が一メートル以上になる予定です。



▲基盤整備に取組む職員と研修生

今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

今年も草丈が一メートル以上になる予定です。

カカニ農場の降雨量(92.11~93.10)(単位mm,日)

	降雨量	降 雨 日 数							降雪
		0	0.1~10.0	10.1~25.0	25.1~50.0	50.1~75.0	75.1~100.0	100.1以上	
92.11	16.0	28	1	1	-	-	-	-	-
12	8.7	29	2	-	-	-	-	-	-
93.1	8.7	27	4	-	-	-	-	-	1
2	37.9	24	2	2	-	-	-	-	2
3	46.4	25	5	1	-	-	-	-	1
4	149.7	19	6	3	2	-	-	-	1
5	321.9	8	13	7	2	-	1	-	-
6	324.9	2	16	7	4	1	-	-	-
7	607.0	1	14	7	6	2	-	1	-
8	796.6	0	13	6	5	7	-	-	-
9	254.7	7	13	6	4	-	-	-	-
10	26.8	27	3	1	-	-	-	-	-
計	2,590.1	197	92	41	23	10	1	1	-

1日の最高降雨量は7月14日の127.7mm(観測7時限定)

カカニ農場の気温(92.11~93.10)(単位℃)

	月平均				日 別			
	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高
92.11	8.1	15.1	5.0	17.0				
12	4.3	11.2	3.0	15.0				
93.1	3.8	9.7	1.5	12.5				
2	6.4	12.7	2.0	16.5				
3	7.8	13.9	4.5	17.0				
4	11.7	19.2	8.0	23.0				
5	13.7	20.4	11.0	25.0				
6	16.1	21.6	14.0	24.5				
7	17.1	21.4	16.0	24.0				
8	17.1	20.6	16.0	24.0				
9	14.9	19.4	14.0	23.0				
10	11.8	18.4	8.5	21.0				

## ネパール農場と 学校訪問の旅報告

第四回目を、北海道・宮城・長野・関東各都県の、八十代から二十代の男女、十七名の参加で実施。今回も、横浜の玉木南様には、参加費を負担願っての、全行程案内助手を、お願いしました。又、成田でカットマンズで、機内預けの荷物出し入れのお手伝いをしてほしいと、三人の方が往復

93年、農場と学校訪問の旅に参加し、二日目ボカラへ飛び、サランコットへハイキングに出掛けました。五年前の賑ひた村という印象は一変しました。申張まで入るようになった車があげる土埃で、家々はうす

路、同一飛行機で行動して、助力下さいました。年代、職種、性別を超えた、実地見聞をしての、感想、助言もお寄せ歓迎いたします。今後の事業運営に生かす所存です。

千葉県の戒能恵子様に、写真と寄稿をお願いしました。ジャイチのネパールでの実際を、ご理解下さい。

らさつと手を出し、ギブミーマンニーと言いました。もっと驚いたことは、子どもたちが日本語を上手にしゃべることです。急遽、弁当運びを頼んだ十五才の少年は、それはタイマの

遊んでいたのでありますが、すれどないと言うか騙ることを知らない姿は、清新な空気とあいまって、さすがにいいものでした。みんな長い丈のスカートをはいています。民族衣装かと思つたら、日本からの古着をウエスト部分だけ、カマラ先生が直したものだそうです。それにしても、建物がすべて、私の予想をはるかに越えて、本格的なものだったのには、すっかり感服してしまいました。特に、学校の敷地を取り囲んだバウ線の頑丈な出来には、たじろいでしまいました。ジャイチの意気込みを感じて、

女の子には学問は程々にと考えられがちでしょうから。ついでに、国語を教えているというカマラ先生についての感想。二十五歳でカトマンズ出身の彼女が見せる、ういういしさ、はじらいの表情には、同性ながらほれほれしてしまいました。今回は、カトマンズからモカカニからも、ヒマラヤは姿を見せてくれませんが、よほど行状の悪い人がメン

市内の排気ガスのためときき、納得してしまいました。ネパールの人たちは、もっともつと経済的に豊かになってもらいたいと願います。けれども同時に、経済成長するにつれ、社会主義のせ

## 再び ネパールを訪ねて

戒能 恵子

本宅、あれはチベツタン、ハウスね」など、次々と私たちが喜びそうな事をガイドしてくれました。

それに比べ、シンパンジヤンの子どもたちは違つて見えました。ちょうど運動場でハンカチ落としをして

につれ、社会主義のせがらいい社会になってしまった私たち日本のようにはない。種々な暮らしぶり、物質的豊かさ、立派な社会を、模索していつてほしいと願っています。



▲シンパンジャンでカマラ先生（右から二番目）を囲んで。

◆第五回JAITI・ネパール農場と学校訪問の旅  
参加者募集予告  
今年も実施します。ご希望の方は、今から日程を組んでおいて下さい。日程 十一月十二日(土)から二十日(日)の八泊九日。費用 三十一万円を予定。これで、出国から人間まで財布は不要です。案内助手一名募集 この旅のお世話役です。勿論参加費は必要です。旅ジャイチが主催して、案内しますが、旅行業者のバックツアーではありません。お立ち寄り下さい。(場)

○編集後記○  
昨春秋、武石村の支援者の手で「どんぐりひろい」をしました。ネパールの将来の財のためです。夢のある、息の長い活動です。日本経済の急激な繁栄はピークを過ぎたようですが、そのお蔭で、急に便利さが増えてしまった我々にとつて、ネパールは「人間が生きるために本当に必要なもの」を考へる機会を与えてくれると思います。ジャイチは、速る現代日本のオアシスのような場所、お立ち寄り下さい。(場)

### ご寄附のお願い

ジャイチの活動を何れも心から認めて下さり、感謝申し上げます。運営されている財源その性について説明とお願いを致します。ご協力をお願い申し上げます。

1. ジャイチ基金——財団法人ジャイチの基本財源の確保  
基金を信託銀行で運用し、その果実(課税費)でジャイチ活動の基本部分を確保することを目的としています。常樹草、多年草、果樹のようなものです。・基金が大きくなればなるほどジャイチの財源が豊かになります。・基金へ寄付して頂いたお金は何十年何百年あともジャイチと共に皆様の魂が残り続けます。
2. ジャイチ維持費——ジャイチの運営維持費  
基金から生み出される財源では只今のところ活動に不足を来します。そこで今必要な活動に使わせて頂く目的のものです。一年草のような養殖して秋に収穫して終わります。・当分の間、この維持費はジャイチの活動に欠かせない費用です。
3. ジャイチ事業費  
新たに大きい費用のかかる事業を計画した時にその必要費用として確保することを目的としています。・遠地の予備(ジャイチ基金の果実、ジャイチ維持費で組まれる)では届かない時に臨時に集める目的の財源です。・必要な時に臨時にお願いのお知らせをさせていただきます。

ジャイチでは上の3つのような形でご寄附をお願いしております。尚、ご寄附下さったが、お返し頂きますと幸いです。もしも特に指定のない場合は基金と維持費に半分ずつ使わせて頂きますのでご了承下さい。

郵便振替 長野 1-65434  
振込先 番号 銀行振込 八十二銀行丸ノ子支店(曾) 420577  
口座名 財団法人日本農業研修推進財団  
住所 〒368-05 長野県小原郡武石村456  
電話 0268-85-3486 FAX 0268-85-3520

尚、金額に関しては規定がございませんので、お取りお取りご自分で決めて下さいますようお願い申し上げます。(例えば、収入の1%を、小遣の1%を、約な考えは如何がでしょうか。)